

(別紙様式)

令和8年度 学校自己評価システムシート (県立人間向陽高等学校)

(A3判横)

目指す学校像	「ひたむきに、おおらかに、たくましく」未来を生き抜く心身ともに健全な若人の育成
--------	---

重点目標	1 授業改善及び学習習慣の確立を通じた学習意欲の向上 2 行事等の実践を通じた主権者意識の育成及び自律的・基本的生活習慣の確立 3 生徒一人一人に即した進路選択とその実現 4 保護者参加と中学校・地域との連携強化による協力支援体制の確立
------	---

* 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

* 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 名
	生徒名 名
	事務局(教職員 名)

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価(月日現在)			実施日	年月日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>〈現状〉多くの生徒が授業に真面目に取り組み、定期テスト前の準備もしっかりと行おうとしている。一方で日々の予復習の習慣は定着しておらず、全体として学力向上にあまりつながっていないように見える。</p> <p>〈課題〉基礎的な知識の蓄積に加えて思考力を高める工夫が必要である。また、生徒の意識を適切に把握し、生徒が意欲的、主体的に参加できるような授業改善を進めなければならない。さらに、適切な科目選択が授業の充実につながるため、生徒のキャリア意識の確立を促したい。</p>	<p>評価項目 基礎基本の確立と思考力・応用力を向上させて深い学びを促す授業改善の取り組み</p>	<p>・アンケートによる生徒の「声」を踏まえ、基礎基本をベースに生徒が自ら考え学び合う、対話的で深い学びができるよう授業の創意工夫に努めていく。 ・初期学習指導を通じて学習内容と学習方法、学習課題、評価の仕方を具体的にわかりやすく伝え、生徒が自ら定期テストの振り返りや自己課題の発見が行えるようにして、生徒の予復習、家庭学習習慣の定着を進めていく。 ・進路部とも連携し、生徒が適切なキャリア意識をもとに科目選択を行い、目的意識を高く持って授業に参加し、学習意欲向上につなげていく。</p>	<p>・アンケート等の分析により生徒の実情、そして要望を把握し、主体的・対話的で深い学びを目指した授業の工夫に取り組むことができたか。 ・初期学習指導から学習への動機づけができたか。また、生徒自ら定期テストを振り返り、自己の課題を発見して自己評価を行い、日常的な予復習・家庭学習の習慣が定着したか。 ・生徒が適切なキャリア意識を持ち、自分に合った科目選択を行って学習意欲を高められたか。</p>				
2	<p>・基本的生活習慣とTPOについて 挨拶や礼儀などの基本的生活習慣は、多くの生徒に身につけているが、一部で徹底されていない場面も見受けられる。今後は、時と場所、場合に応じた行動(TPO)を強く意識できる生徒の育成に努める。 ・情報モラルと公共性について 携帯電話の使用マナーを含め、公共の場におけるルールの理解を深め、トラブル防止に向けた取り組みを強化する必要がある。 ・整容指導と校則のあり方について 校則で定められた整容規定を守れない生徒が散見されるため、対話を重視した段階的な指導を丁寧に行う。また、生徒自身が主体的に考えられるよう、対話による校則の検討を継続していく。</p>	<p>生徒一人一人の個性に即し、人間として望ましい資質の伸長を図る</p>	<p>・朝の登校指導、授業開始時の巡回の継続、教員間の足並みを揃え、生徒指導を日常化していく。 ・社会生活におけるマナー向上指導の一つとして情報モラル研修会・非行防止研修会を企画し、自己の課題として考えさせる。 ・教員間の共通理解と協力体制の確立(特に整容指導・挨拶励行、時間厳守について) ・定期的な整容指導の実施 ・生徒会と連携し、教員、生徒間で、校則に対する意見の交換をする機会を設け、意見の交換を行う。</p>	<p>・登校指導、巡回指導が継続的に実施できたか。教員間の足並みに大きなズレがなかったか。日常的に生徒指導ができる教員が増えたか。 ・公共性へ理解を深め、自己の課題として考えさせる研修会が効果的に実施できたか。 ・教員の共通理解のもと、生徒の整容指導への理解、協力体制を確立できたか。 ・生徒会と連携し、教員、生徒間で、校則に対する意見の交換をする機会を設定し、意見の交換ができたか。</p>				
	<p>〈現状〉①生徒会の生徒を中心として行事に対して積極的に取り組む姿勢が醸成されている。また、行事への期待度も高い。 ②生徒一人一人が学校生活をよりよいものとしていおり、生徒総会やよくする会でのクラス討議で意見意見表明することが定着しつつある。 〈課題〉①行事において生徒会本部以外の委員会、部活動などとの連携に問題があり、行事が円滑に進まないことや、仕事量の偏り課題がある ②生徒の意見表明に対して、十分な回答が用意されていないことや、要求実現までに時間がかかりすぎてしまうことに課題がある。</p>		<p>・計画性や実現可能性を模索しながら行事運営を行う。また、生徒会本部以外の組織とのコミュニケーションや話し合いを十分に行う。 ・生徒の意見表明を真摯に受け止め、生徒会だけでなく、教員やPTAを巻き込んでより生徒の声が反映されるための仕組みづくりを行う。また、生徒会ニュースやアンケートを活用して生徒の声が全校に周知できるようにする。</p>	<p>・行事の企画・運営を生徒会本部以外とも連携して行うことができ、全校参加型行事が実現できたか。 ・アンケートやクラス討議など生徒の意見表明がしやすい仕組みをつくることができたか。また、生徒会だけでなく、教員・PTAとの連携を試み、広い視野に立って要求実現を行うことができたか。</p>				
3	<p>〈現状〉・多様な進路希望を持つ生徒に対し、各学年・担当が工夫を凝らし、計画的に進路を比較・検討できるよう指導を行っている。</p> <p>〈課題〉①希望進路の実現に向け、安易な選択に流されず、より高いレベルでの自己実現(＝一歩上の「なりたい自分」)を目指す姿勢の育成 ②変化の激しい入試制度に関する情報を、生徒・保護者・教職員間で適切かつ十分に共有する体制の確立</p>	<p>生徒一人ひとりの個性や適性を尊重し、主体的な進路選択とその実現を支援する。</p>	<p>①3年間を見通した進路行事・進路ガイダンス・総合的な探究の時間を通して進路意識の向上を図るとともに、スタサプ・スタサゴや実力診断テストの結果を活用した事後指導を充実させる。 ②生徒に対しては各進路行事やガイダンスでの情報提供を行い、志望分野に応じたオープンキャンパス・学校説明会への参加を促す。保護者には説明会や進路だよりを通じて情報発信を行い、教職員には研修等を通じて最新の進路情報の共有を図る。</p>	<p>①卒業学年における第1希望進路の実現率 ②-1進路行事の実施状況と生徒の進路意識の変化 ②-2保護者対象説明会の実施状況および事後アンケートの結果 ②-3教職員対象の研修会の実施状況</p>				
4	<p>・PTA・後援会の在り方、活動内容の整理を求め声があり、話し合いが続いている。より良い形になるよう学校と保護者をつなぐ立場として関わることが求められている。</p>	<p>保護者と学校の協力体制が作れたか</p>	<p>・PTA予算を何に使うか、PTA活動のあり方などの検討をして、本校の実情に基づいた取り組みができるように、本部・各委員会の計画立案に関わっていく。</p>	<p>・本部、各委員会の計画立案に対して、各担当が丁寧に関わることができたか。</p>				

学校関係者評価	
実施日	年月日
学校関係者からの意見・要望・評価等	